

仁淀川洪水浸水想定区域図（想定最大規模）



番号	国	県	市町村
1	仁淀川 (直轄区間)	①河道の掘削等	①日下川 野田川(土佐市)
2		②侵食対策	②長竹川 新堀川(土佐市)
3		③粘り強い化	③天神ヶ谷川 後川(土佐市)
4		④築堤	④中の谷川 宮ノ内川(土佐市)
5		⑤日下川新規放水路	⑤末光川 積善寺川(土佐市)
6			⑥渡し上り川 太郎丸奥ノ土居川(土佐市)
7			⑦火渡川 舟川川(土佐市)
8			⑧長池川 鷹ノ巣川(土佐市)
9			⑨新堀川 東谷川(いの町)
10			⑩新川川 大和田川(日高村)



宇治川流域では、堤防が決壊すると、低い土地に多くの方が暮らす狭い範囲に大量の水が流入する恐れがある。(命の危険がある人：約9,830人)

主な整備メニュー（直轄事業）

①河道の掘削等

土佐市用石地区等の土砂が堆積し、樹木が生い茂っている箇所では、土砂の除去や樹木の伐採を行い、洪水時の水位を低下させ浸水被害を軽減させる。
用石地区 河道掘削

②侵食対策

土佐市高岡地区等の局所洗掘に対して堤防の安全性が低い区間については、継続的に現地状況を注視しつつ、高水敷造成、低水護岸の整備等の対策を実施し、堤防の決壊に伴う甚大な浸水被害を未然に防ぐ。

③粘り強い化

多くの人々が生活するいの町の市街地を守る堤防を、決壊するまでの時間を少しでも長くするために粘り強い化を検討。

④築堤

堤防高さが低い箇所では、堤防嵩上げを行うことで流下能力を向上をさせる。

⑤日下川新規放水路

H26.8月の台風12号により甚大な被害が発生した日高村では、R5.6月から日下川新規放水路が稼働し、治水安全度が大きく向上

凡例
— 直轄事業
— 県事業



政策提言

- 仁淀川の直轄区間では、支川（波介川、宇治川、日下川）の大規模事業が令和5年度に完了することから、**これからは本川の治水対策（ハード対策）を推進し、住民の生命を守る取り組みを進める**ことが重要です。
- 特に洪水時の本川水位を低下させるための下流部の**①河道の掘削**や、いの町市街地で暮らす人々の安全を確保する**③堤防の粘り強い化**などを早期に進捗することが必要です。
- このため、**早期に河道掘削などを進めるための重点的な予算配分と、堤防の粘り強い化の実施をお願いします。**

- 近年は気候変動により、全国各地で水災害が激甚化・頻発化
- 仁淀川下流域では、本川及び支川沿いに主要な市街地が形成されているが、その地盤高は本川から離れるほど低くなっており、ひとたび氾濫が発生すると浸水深が深くなるため、多くの住民が命の危険にさらされている
- 迫り来る豪雨災害の脅威に備えるためには、現行の仁淀川水系流域治水プロジェクト（R3年3月策定）を「気候変動による降雨量の増加などを考慮したものへ進化」させる必要がある

気候変動を考慮した流域治水プロジェクトへの見直し

- 気候変動を踏まえた降雨量、河川流量を算出し、気候変動によるリスクを明らかにした上で、治水安全度の目標を見直し
 - そのうえで本川・支川・上下流一体となって、流域全体の安全度を確保するためのハード・ソフト対策を策定
- （対策例）ハード対策：堤防整備、堤防の粘り強い化、遊水池、雨水貯留浸透施設の整備、田んぼダム、輪中堤など
ソフト対策：土地利用規制、立地適正化計画の策定、特定都市河川浸水被害対策法の適用など

【ハード対策の事例】

イメージ図



気候変動を踏まえた水災害対策検討小委員会より

学校のグラウンドを活用した校庭貯留

2019年10月3日高知商業高校グラウンド

水田貯留

水田貯留の例（写真：新湖県 HP 田んぼダム写真より）

堤防の粘り強い化

調整池

雨水貯留施設

いの町による雨水貯留施設（伊野商業高校グラウンド下）

政策提言

迫り来る豪雨災害の脅威から流域の住民の生命を守るため、現行の仁淀川水系流域治水プロジェクトについて、早期に気候変動を踏まえた見直しをお願いします。